

『ガールズ編しごと準備講座 第2回修了者調査』

◎結果要約

横浜市男女共同参画センターでは、2009年より、働きづらさを抱える若年無業女性を対象に「ガールズ編しごと準備講座」（以下「ガールズ講座」という）を実施してきた。2018年末現在第20期までを終え、受講者は総計417名に上っている。

2013年に行った第1回調査から5年がたち、2010年に開始した「めぐカフェ」就労体験に加え、2015年からは新たに地域の市民活動にボランティアとして参加する「社会参加体験」も開始した。それらの「ガールズ支援事業」が講座修了者にとってどのように役立ったのか、また今後の支援のあり方を探るため、アンケート調査を行った。

調査時期：2018年8月～9月

調査対象：2013年度（第9期）から2017年度（第17期）までの「ガールズ講座」修了者167名

※前回調査の対象者（第1～8期）、終了後まもない期（第18、19期）の修了者は対象外とした。

調査方法：郵送によるアンケート調査 全24問

回答状況：有効回答数74件（回答率47.1%）※対象者167人中、調査票不達者を除く157人を母数とする。

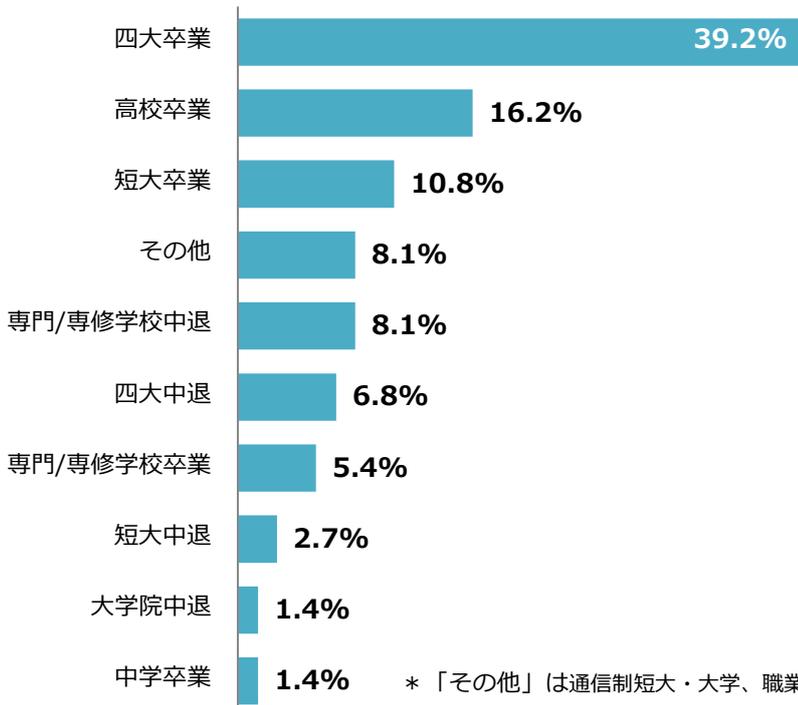
調査項目：

- (1) 回答者について
- (2) これまでの(学校・家庭・仕事での)経験について
- (3) ガールズ講座・社会参加体験（ボランティア）の役立ち度等について
- (4) 『ガールズ支援事業』を利用したあとの行動、活動、就労について
- (5) 現在の状況について
(悩みの相談先、仕事以外の活動、今の自分に必要なこと、将来について、伝えたいこと等)

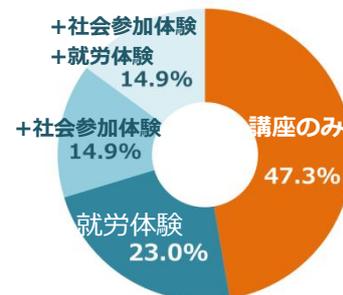
回答者プロフィール

回答者の平均年齢は31.2歳（受講時の平均は28.1歳）

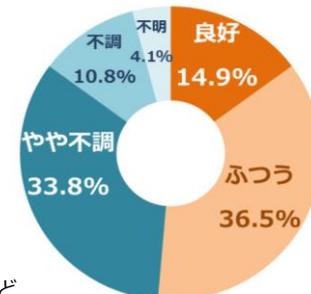
■最終学歴



■利用した“ガールズ”支援事業



■現在の健康状態



調査結果

■ ガールズ講座では「同じ立場の人と知り合い、話すことが励みとなった」

同じ立場の人と知り
合い、話すことが励
みとなった

講座で役立った点
(第1位)

66.2%

「自分だけではなかったと思えて心が軽くなり、救われた」「色々な人と交流して視野が広がった」「安全な場で自分を認めることが少しずつできるようになった」など、人の中で自分の変化を感じたという声が多かった。

■ 社会参加体験では「役割を担い、自分に自信を持った」

活動の中で役割を担う
ことで、自分に自信を持
てたり、達成感を味わう
ことができた

いずれも

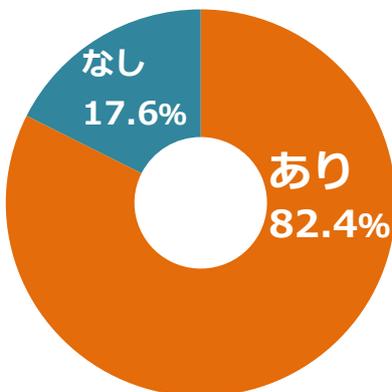
63.6%

色々な世代や立場にあ
る人と接して、ものの見
方や考え方が広がった

社会参加体験（ボランティア）で役立った点（第1位）

社会参加体験は、ボランティア先で役割を担い、適度な見守りの中で自分の力を試すことができる場。「自分が必要とされていることを再認識できた」「運営側になることで社会とのかかわりを思い出せた」など、達成感や視野の広がりから自分の可能性に気づく人が多かった。

■ 修了後の就労率は82.4%



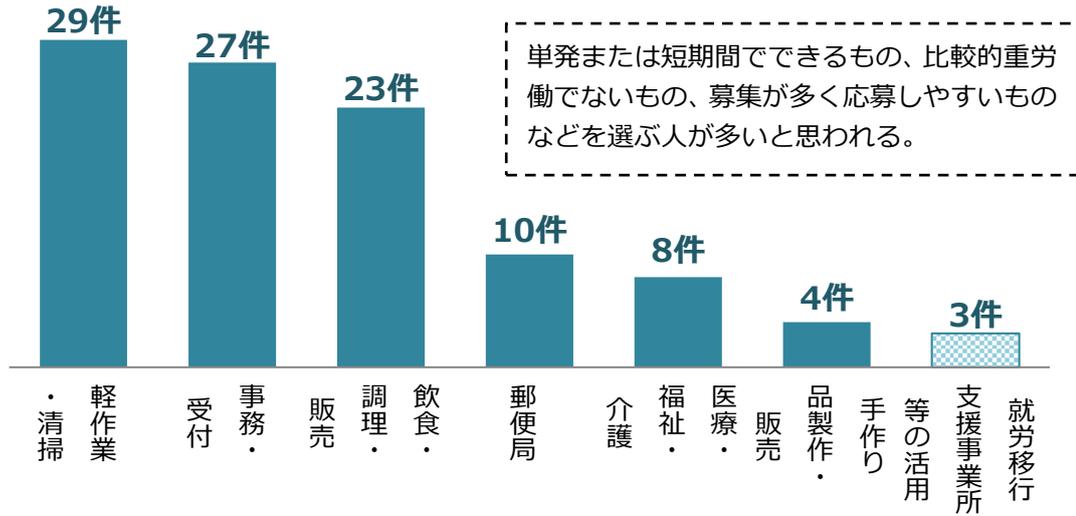
“ガールズ”支援事業（*）利用後の就労

“ガールズ”支援事業（*）利用後に就労した人は、回答者の8割を超える61人。現在就労中の人は43人で、週に平均3.6日、1日平均5.7時間働いている。受講前に悩んでいたことのトップ3は、「働くのに不安やこわさが先立つ」「自信がなく自分を否定してしまう」「一歩を踏み出すきっかけがつかめない」だった。

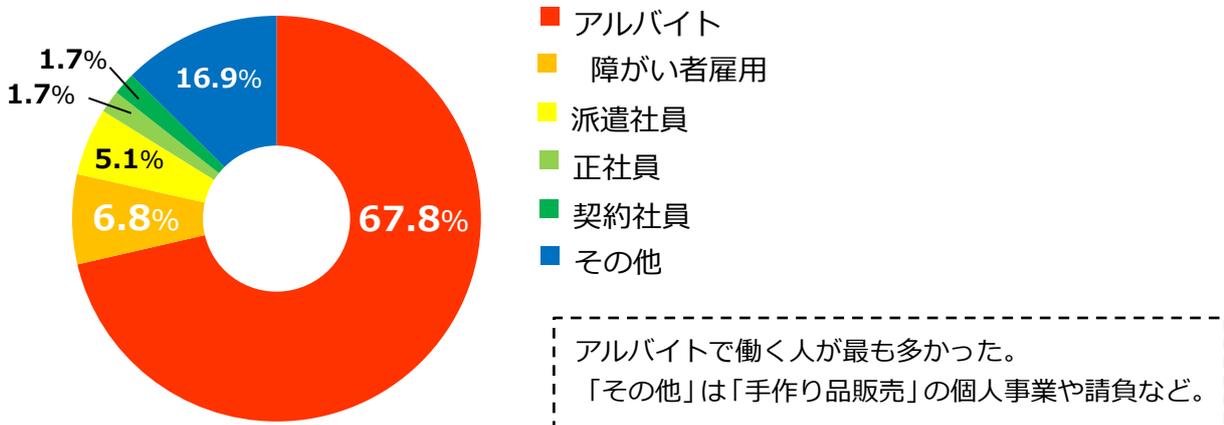
*“ガールズ”支援事業とは

「ガールズ講座」「社会参加体験（ボランティア）」「めぐカフェ就労体験」等一連のプロセスを総称している。

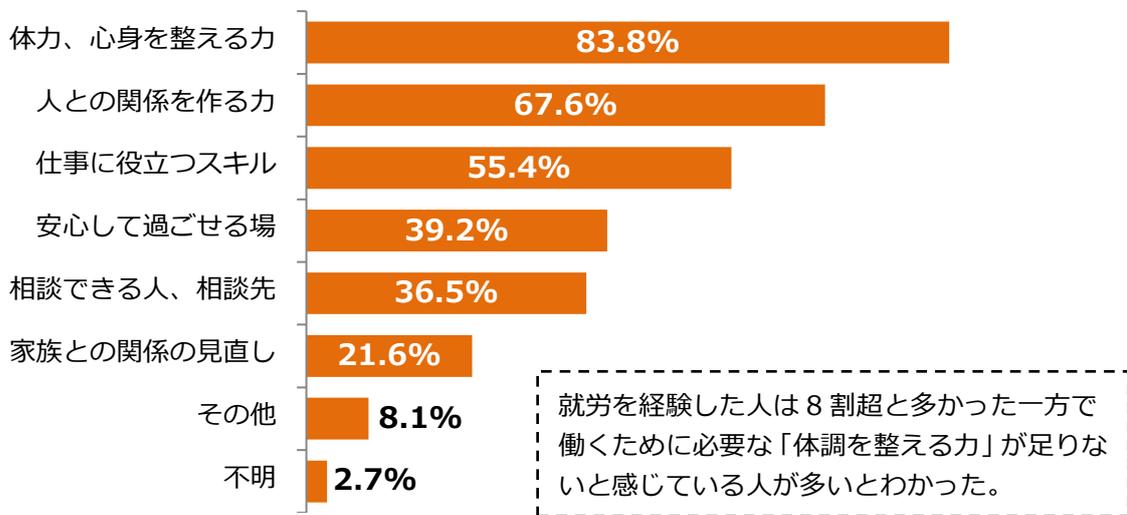
■ “ガールズ” 支援事業利用後に経験した仕事の内容 ※内容の合計であり、人数の合計ではない。



■ 直近の働き方



■ 働く・働き続けるために、今の自分に必要なこと



■自分の将来について感じていること、考えていること（抜粋）

ア) 不安なこと

就 労	<p>【就労中の人】「職場の先輩はサービス残業が多く、長く勤めることは難しいと感じる」 「今はアルバイトなのでいつかは社員として働きたいが、自分の経歴で雇ってくれるところはほぼない」 「職場の人間関係がうまくいかず、続けるか転職か、次が決まるのか」 「1年ごとの契約で将来が見えない」 「独身でパート。将来働き続けられるか」</p> <p>【現在は無職の人】「働いていない期間が長くなり、その自分が役に立つのは難しいと思ってしまう」 「高校中退で就労経験のない自分が就職できるのか」</p>
自 立	<p>「親が過干渉なので自立できるかどうか」 「自活するだけの収入を得られるか」 「親も兄弟も不調を抱える中で、この先両親がいなくなったらと思うと途方に暮れる」 「(結婚せずに)ひとりでちゃんと生きていけるか」 「結婚、出産はできるのか」</p>
体 調	<p>「仕事しつつも体調は不安定」 「障がいの程度がどのくらいか、就職できるか」 「完治する病気ではないので(障がいなので)上手に病気と付き合い合っていけるか」</p>

イ) 自分がめざすこと、周囲への期待

就 労	<p>「長く同じところで働きたい」 「自分に合った職場を見つけて自立したい」 「職場で役に立ちたい。成長したい」 「社会保険に入って働きたい」 「仕事にやりがいを感じられ、職場の人と助け合える、やさしい職場で働けたらいい」 「6か月間就労移行支援に通ったのち、就職したい」 「障がい者雇用なので人間関係に努力しつつ、自分の苦手な部分を会社に伝えたい」 「100%を使わない、ほどほどの力で長く働きたい。頼れる人を増やして、人のネットワークの中にいるようにすることを心がける」</p>
自 立	<p>「少しでも自分で収入を得て生活したい、体力をつけたい」 「いつかは一人住まいをしたい」 「相談できる支援機関を活用し、孤立しないように生活したい」 「親と適切な距離を取り、物事を自分で決めたい」 「ゆっくり生活したい」 「めざすのは一人暮らしを維持できる、無理のない働き方とセルフケアをして健康的に生活すること」</p>
体 調	<p>「病気が回復して、年相応の収入を得られたらいい」 「病気とともに社会復帰できるように」 「病と向き合い、私らしく穏やかに暮らせるように」</p>
結 婚	<p>「一人で自立は無理でも、結婚して二人でやっていくならできるかなと思う」 「いつか結婚したい」</p>
周囲への期待	<p>「一度つまづいた人がまた社会に出て働き続けることを、長い目で見守り、応援してくれる社会になってくれたらと願っている」 「病気とつきあいながら働きたい。周囲には病気に対する正しい理解を期待する」 「働けていない=恥、という“常識”が息苦しい。社会が“普通”を決めないでほしい」</p>

■質問への回答以外に伝えたいこと、感想（抜粋）

- ・ガールズ講座では、自分で自分を守って行動すること、自分の事情を最優先して考えることが許される空間で初めて過ごした。周りに合わせることで体調を崩し続けてきた私にとって、日常の中で自分を守ることを考えられるようになったのは、とても大きな変化だった。
- ・ガールズ講座に参加し「働くこと」に対しての考え方が変わった。少し肩の力をぬいて考えられるようになり、いつの間にか(自分を)責めない時間が増えてきた。
- ・最近でもガールズ講座の修了者向けメルマガをみると、「自分のペースでいいんだよ」と励まされた気持ちになる。仕事に就けてもまた次の悩みが出てくるが、自分らしいスタイルを見つけられたらと思っている。
- ・振り返ってみると、「めぐカフェ」での体験や ガールズ講座で出会った友だちに、今でもとても支えられているなあと改めて思う。
- ・ガールズ講座や「めぐカフェ」就労体験により、色々な人がそれぞれの悩みや考えを持って生きていると感じられた。一生懸命生きている人が幸せになれる世の中のためのフォーラム(男女共同参画センター)であってほしい。
- ・横浜市以外でも、働きづらさに悩むシングル女性のための支援が、全国的に広まればいい。これから該当者の年齢層も上がってくると思うので、(現在 39 歳までの)年齢制限をもう少し上げていってもいい。